

1 中学校外国語科における教育課程実施上の課題と指導上の留意事項

* 以下中教審 教育課程部会特別部会 論点整理より (H27 8月)

(1) 外国語における課題 (小・中・高等学校)

- ・学校間の接続が十分とは言えない
- ・進学後に、それまでの学習内容を発展的に生かすことができていない
- ・特に「話す」「書く」などの言語活動が十分に行われていない

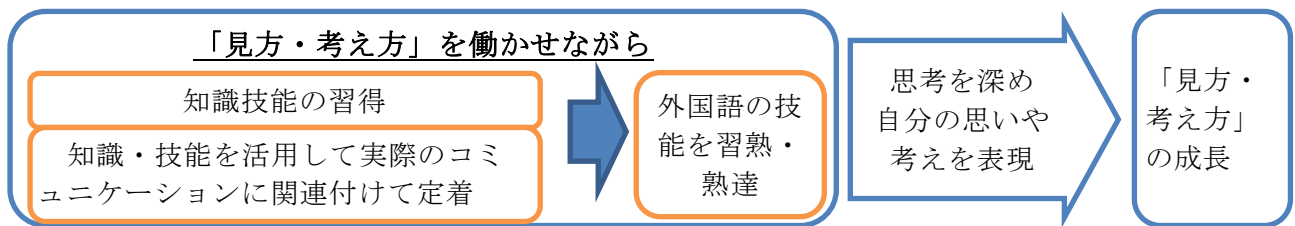
(2) 外国語の中学校段階における改善の視点

- ・学校、地域、他教科等での学習内容等と関連付け
- ・互いの考えや気持ちなどを英語で伝え合う対話的な言語活動を重視した授業を充実
- ・授業を実際のコミュニケーションの場面とする観点から、授業を英語で行うことを基本とする
- ・新たに4技能を測定する全国的な学力調査の実施により、指導改善のサイクルを確立

* 以下、H28/6/20 段階 外国語ワーキンググループより (試案)

○ 外国語教育における「見方・考え方」について

「社会や世界、他者との関わり方の側面から言語を捉え、外国語やその背景にある文化の多様性を尊重し、コミュニケーションを行う目的・場面・状況等に応じて、外国語を聞いたり読んだりして情報や自分の考えなどを形成・整理・再構築し、それらを活用して、外国語を話したり書いたりして適切に表現し伝え合うために考えること」



○ 育成すべき資質・能力について (中学校)

「外国語の見方・考え方を働かせ、コミュニケーションの目的を理解し、見通しを持って目的を実現するための4技能による総合的な言語活動を行うことを通して、簡単な情報や考えなどを外国語で交換することができる資質・能力を、次のとおり育成する」

「知識・技能」(何を知っているか、何ができるか)

「外国語を通じて、言語の働きや役割などを理解し、外国語の音声、語彙・表現、文法を、4技能(聞くこと、読むこと、話すこと、書くこと)を用いた実際のコミュニケーションの場面において活用できる技能を身に付けるようにする」

「思考力・判断力・表現力等」(知っていること・できることをどう使うか)

「外国語でコミュニケーションを行う目的・場面・状況等に応じて、日常的・社会的で具体的な話題について理解したり表現したり、簡単な情報や考えなどを交換したりするなどして伝え合うことができる力を養う」

「学びに向かう力・人間性」(どのように社会・世界と関わり、よりよい人生を送るか)

「外国語やその背景にある文化の多様性を尊重し、聞き手・読み手・話し手・書き手に配慮しながら、主体的に外国語を用いてコミュニケーションを図ろうとする態度を養う」

2 資質・能力の育成に向けた教育内容の充実・改善について (中学校)

○ 高等学校における言語活動の高度化に対応するための基礎を培う

中学校 外国語

- 互いの考えや気持ちを外国語で伝え合う対話的な言語活動を重視
- 小学校で学んだ語彙・表現，文字の認識や語順の違いなどへの気付きを生かして，中学校の言語活動において繰り返し活用（意味のある文脈の中でコミュニケーション）
- 身近なコミュニケーションの場面を設定した上で，学習した語彙・表現などを実際に活用する活動を充実

（１）アクティブ・ラーニングの視点からの授業改善 ～外国語教育では～

○ 「深い学び」の過程

言語の働きや役割に関する理解，外国語の音声，語彙・表現，文法の知識や，それらの知識を4技能において実際のコミュニケーションで運用する技能を習得し，実際に活用して，情報や自分の考えなどを書いたり話したりする中で，資質・能力の三つの柱に示す力が総合的に活用・発揮されるようにする。このため，授業において，コミュニケーションを行う目的・場面・状況等に応じた言語活動を効果的に設計することが重要である。

○ 「対話的な学び」の過程

他者を尊重し，対話的な学びを通じて社会や世界との関わりを通じて，情報や考えなどを伝え合う言語活動の改善・充実を図ることが重要である。このため，次期改訂においては，言語の果たす役割として他者とのコミュニケーション（対話や議論等）の基盤を形成する観点を資質・能力全体を貫く軸として重視しつつ，創造的思考とそれを支える論理的思考，感性・情緒を育成する観点からも求められる資質・能力が明確になるよう整理することを通じて，外国語教育の改善・充実を図る。

○ 「主体的な学び」の過程

他者を外国語を学ぶことに興味や関心を持ち，どのように社会・世界と関わり，生涯にわたってどのように学んだことを生かそうとするかについて，見通しを持って粘り強く取り組むとともに，自分の意見や考えを発信したり，評価したりするために，自らの学習活動を振り返って次の学習につなげることが重要である。このため，外国語教育においては，この学びの実現に向けて，コミュニケーションを行う目的・場面・状況等を明確に設定し，学習の見通しを立てたり振り返ったりする場面を設けるとともに，発達段階に応じて，身の回りのことから社会や世界との関わりを重視した題材を設定することなどが考えられる。

（２）授業改善のキーワード

- 求められる言語活動は？
 - ・ 情報を伝え合う必然性があるか
 - ・ 情報を伝え合う際の相手意識があるか
 - ・ 教科書を素材に，実際のコミュニケーションの場面を設定しているか
- 即興で伝え合うとは？
 - ・ 話す活動の前に準備させすぎでないか（書いてから「話す」等）
 - ・ 「その場」で思考・判断・表現させる場面があるか
 - ・ 正確さよりもむしろ伝えたい内容を重視しているか
- 教科書本文（内容）の扱いは？
 - ・ 1文ごとの意味理解で終わっていないか
 - ・ 言語材料が主で，本文は「おまけ」になっていないか
 - ・ 教科書本文の内容を材料とした言語活動を設定しているか
- 単元ゴール（付けたい力）は？
 - ・ CAN-DO（英語を用いて何ができるか）の面からゴール設定をしているか
 - ・ 語や文法事項等を覚えさせることが主たる目標になっていないか
 - ・ 単元末までに行えるようになっていないことを意識しているか